一　般　質　問　通　告　書

令和　６　年　２　月　２１　日

高島市議会議長　廣本　昌久　様

高島市議会議員　３　番　　藍原　章

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が２以上ある場合は、次のどちらかに〇をつけてください。

・質問番号１の用紙にだけご記入ください。
・質問が一つだけの場合は必然的に１となりますので、記入は不要です。

初問は
- ① 全項目一括質問一括答弁
- ２．項目ごとに一括質問一括答弁

（質問番号１） 発　言　事　項	シビックテック（civic tech）について

要　　旨

少子高齢化や、コロナ禍などで社会環境が大きく変化するなか、身近な社会問題を解決するための取り組みとして、シビックテックが注目されています。

市民（Civic）自らがテクノロジー（Tech）を活用して、自治体サービスの改善や地域社会の課題の解決に向けた活動をしていこうという試みです。簡単に言い換えれば、「地域に必要な仕組みを市民と行政が手を取り合って考え、オープンデータや IT 技術を活用して具現化したり、既存の公共サービスをみんなで使いやすいものにしたりする活動のこと」です。

一つ目は、「公共サービスへのニーズの拡大」です。銀行では、以前は時間内に窓口に出向くのが当たり前でした。それが今ではインターネットやコンビニ、ATM でいつでもどこでも取引が行えます。これまでは画一のサービスを提供して、市民がそれに合わせる形だったのが、多様化する市民の生活にサービスの方が合わせる形に変わってきています。

二つ目は、「既存サービスの補完」です。少子高齢化や都市部への人口集中に伴い行政リソースに限界がある中で、従来通りのサービス提供が困難になってきています。 こちらは、「古くからあるニーズ」への対応と言えます。「書かない窓口」や「外国語での窓口対応」、「聴覚障がいの方用ディスプレイ表示」など、住民や民間の力でフォローしなければならない状況が生まれているのだと思います。

三つ目は、「社会のパラダイムシフト」です。2011年の東日本大震災では、機能不全に陥った行政を支援するために、エンジニアを中心とした全国のボランティアが立ち上がり、被害状況や支援物資の不足などを地図上にマッピングしたインターネットサイトを、わずか数日間で公開しました。これが、日本でシビックテックの存在感が一気に高まった原点かもしれません。 また、コロナ禍で東京都が開設した「新型コロナウイルス感染症対策サイト」は、シビックテックの代表例です。サイトの開発を請け負った東京の非営利団体「コード・フォー・ジャパン」が1週間ほどでサイト構築を行い、公開したことが話題を呼びました。サイト構築に当たり、開発プラットフォーム「GitHub」にソースコードを公開し、多くの市民エンジニアからの意見が寄せられたことで、システムの改良や多言語対応などにつながったそうです。また、公開されたコードが他の自治体における各県版のコロナ対策サイトの構築にも役立ったそうです。

そこで、身近な例として隣の福井県鯖江市の例をご紹介します。

・「乗りたいあのバスは、今どこ？鯖江バスモニター」

鯖江バスモニターは、リアルタイムで鯖江市を走る市営バスの動きを確認できるサービスです。路線や時刻表、現在走っている場所のデータが市のオープンデータサイトで公開されていて、市民はそれらを自由に使用することができます。誰でもデータを利用してアプリを作成することが可能です。さらに注目すべきは、そこにかけているコストです。実はこのデータはバスにタブレットを載せてその GPS 機能を使用して集められており、以前のような専用システムの開発などは行われていないため低コストで情報の公

開ができています。データの公開は前述のオープンデータサイト”データシティ鯖江”で公開されています。これは鯖江市が、2014年6月から運営している五つ星オープンデータのポータルサイトで、ホームページで公開する情報を多方面で利用できる XML や RDF という形式で積極的に公開していくための基盤となっています。行政機関がウェブを活用して積極的にデータの提供や収集を行うことを通じて、行政への国民参加や官民協働の公共サービスの提供を可能とすることが狙いとなっています。

すでに作成されたアプリは100を超え、有益なオープンデータの公開も積極的に行っています。

・「女子高生発、図書館をもっと便利にするアプリ　Sabota つくえなう！」

この取り組みは、「市民主役条例」を制定する鯖江市でつくられた、JK（女子高　生）が主役となって地域活性化を模索していくプロジェクトです。この Sabota とは彼女達による鯖江市図書館をより便利に利用するためのスマホアプリです。Sabota で使われているオープンデータは、蔵書情報と、個人用学習机の空き情報で、特に空き机情報 については新たに机にセンサーを設置し、リアルタイムの情報をオープンデータ化するところまで実現しています。女子高生を主役に、市役所 JK 課をはじめ、大学やメディア、市民団体等の大人たちのサポートで Sabota は作られています。地元に本社を構えるモバイルアプリ開発企業がアプリ制作のための基礎知識講座を開き、東京の企業がセンサー設置からアプリへ情報を渡す基盤作りを手助けしています。このように事業者との連携は、共にオープンデータ利活用におけるキーワードで、彼女たちのまちづくりはどれも”ゆるく”、かわいさや楽しさを重視しています。鯖江市はそのような若者や市民の声を受け入れ、反映させサービスを実現させています。

このように、シビックテックの需要は、アフターコロナで高まると考えられます。しかし、シビックテックによる仕組みづくりが進んでも、高齢者にはテクノロジーを活用したサービスの利用にハードルが高いという課題があります。そのため、お年寄りでも気軽にサ

ービスを使える環境を整えながら、シビックテックを推進することが重要となります。そこで、以下について伺います。

①シビックテックの活用についての見解を伺います。

②高島市で、シビックテックを活用した事例はありますか。

③高島市と他市のオープンデータをどのように比較分析されていますか。

④若者や子育て世代からの公共サービスのニーズ拡大をどのように把握されていますか。

⑤高齢者の方が公共サービスを気軽に使えるための環境整備にかかる高島市の現状について伺います。

⑥シビックテックと類似する取り組みとして、マイナンバーカードなどの利便性を活かすガブテック（Govtech）という取り組みがありますが、この取り組みについての見解を伺います。